

国語問題協議会理事  
画家 林 武

国語問題協議会理事  
癌研究所々長 吉田 富三

日本の敗戦後、アメリカ司令部の國語簡易化の指令は、内閣の訓令告示による漢字制限、新かなづかひ等々の強制により所謂進歩的と称する実は実利的低調な勢力之に加はって、日本傳統蔑視の風潮は日に増した。

國語は実に何千年の歴史につながる民族の生命であり生き物である。吾等は之によって近代國家を形成し先進國に伍した。

本書の著者は小學校の一教員であるが、日本の兒童が自然に漢字を求めてゐる純真白紙の向學心を觀し、文部省の教育規制を守らず、兒童と共に歩み乍ら小學六年間に2000字(規制では881字)を習得さすことの可能性を実験した独特な漢字教育法を編み出し、低く安易につかんとする國語教育界に大きな問題を提起した事は顯著である。

本書は石井勲氏の信念による漢字教育の因由をなした、漢字の原義をつきとめた天才的直觀の書で極めて科學的、哲學的で、劃期的な書だ。  
(原文のまま)

館長注記; 原文は縦書きであるが、横書きに変更している。また、漢数字での表記の多くを算用数字に変更している。

この本の著者は、戦後の國語問題の混迷のさなかに、信念によって、特に小學校の國語教育に挺身され、漢字で出来た言葉は、最初から漢字で教へる教育を実践された。私はその見識に尊敬の念を抱いてゐる。

同じ貯砂の「私の漢字教室」に次のような挿話がある。小學一年生に「動物園」を漢字で示し、動、物、園の文字をそれぞれ説明し、生き物で動くものを「動物」といふのだと教えた。やがて子供たちの中から、それではアリもキンギョもカヘルも、みな動物かといった質問が次々に起こった。最後に、それなら人間も動物か、と質問に立つ子供が出た時に、その通りだと答へる石井先生の眼には、涙が溢れてゐたといふ話である。

この新著「漢字の神話」によって、こんどは大人たちも、漢字を教えられ、考えさせられて、やがて國語國字の百年の論議が、廣く國民の中に、その大道をひらくことを切に念願する。本書を推薦する所以である。  
(原文のまま)

館長注記; 原文は縦書きであるが、横書きに変更している。